

第13回 小笠原航空路協議会

令和6年7月22日（月曜日） 15時00分～

第13回 小笠原航空路協議会 次第

1 開会

2 議事

- (1) 小笠原航空路に係る令和5年度調査結果・検討状況
- (2) 小笠原航空路に係る令和6年度調査事項

3 質疑・意見交換

4 閉会

小笠原航空路協議会設置要綱（設置）

第1条 小笠原諸島における本土との間の航空路開設についての検討を進めるにあたり、関係者間の円滑な合意形成を図ることを目的として、小笠原航空路協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議内容）

第2条 協議会では、次の事項について協議する。

（1）小笠原諸島における航空路に関すること

（2）パブリック・インボルブメント（以下「P I」という。）の

円滑な実施に関すること

（3）その他

（構成員）

第3条 協議会の構成員は、別紙のとおりとする。

（会長）

第4条 協議会には会長を置き、東京都総務局長がこれにあたる。

（招集）

第5条 協議会は、会長が招集する。

2 会長は、必要に応じて構成員以外の者の出席を求めることができるものとする。

（小笠原航空路P I評価委員会）

第6条 協議会には、別途小笠原航空路P I評価委員会を設置する。なお、小笠原航空路P I評価委員会の要綱は別に定める。

（協議会の公開）

第7条 協議会は、原則として公開とする。

（事務局）

第8条 協議会の事務は、東京都総務局行政部振興企画課で処理する。

（その他）

第9条 その他、協議会運営に必要な事項は、協議会が定める。

第13回 小笠原航空路協議会構成員名簿

敬称略

職名	氏名
国土交通省 国土政策局長	黒田 昌義
東京都 総務局長	佐藤 智秀
東京都 港湾局技監	村田 拓也
東京都 政策企画局政策部長	大出 仁
東京都 都市整備局航空政策担当部長	土橋 秀規
東京都 環境局環境政策担当部長	中島 隆行
東京都 環境局自然環境部長	宮武 和弘
東京都 港湾局離島港湾部長	福永 太平
東京都 港湾局 島しょ・小笠原空港整備担当部長	渡邊 正也
東京都 総務局行政部長	田中 角文
東京都 総務局 小笠原・国境離島担当部長	近藤 豊久
東京都 総務局小笠原支庁長	大場 雄二郎
小笠原村長	渋谷 正昭
小笠原村議会議長	池田 望

ATR42-600S



【機材の特徴】

- 国内航空会社が定期便に利用しているATR42-600の派生型機
- 小笠原において、1,000m程度の滑走路で離着陸可能

【開発状況】

- EASA（欧州航空安全機関）の型式証明の取得に向けて試験中
- 2025年初頭から半ばにかけて、EASAの型式証明取得を目指す
- 日本国内では、民間航空会社が2025年に導入予定

航続距離	1,537km
座席数	最大48席
巡航速度	556km/h
必要滑走路長	1,000m

AW609



【機材の特徴】

- 世界初の民間型ティルトローター機
- 滑走して離着陸する場合、400m程度の滑走路があれば、離着陸可能。また、ヘリポートでも離着陸可能
- 飛行機とヘリの機能を併せ持つ航空機であるため、法令整備が必要となる可能性

【開発状況】

- 米国のFAA（連邦航空局）の型式証明を申請中
- メーカーによると、FAAによる型式証明の取得とサービス開始時期は2024年後半又は2025年初頭になる見込み

航続距離	1,240km
座席数	最大9席
巡航速度	509km/h
必要滑走路長	0～400m

滑走路長1,000m

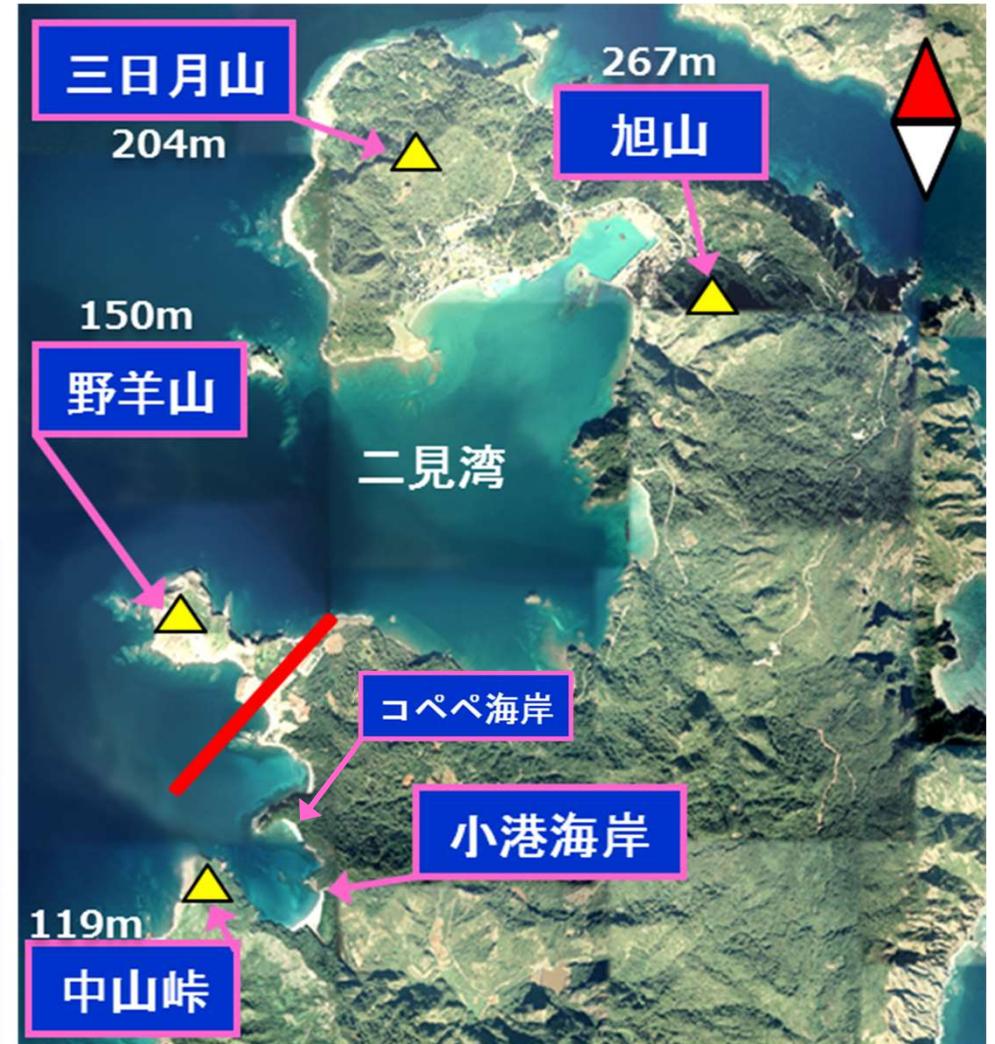
- ATR42-600Sの活用を想定した飛行場を設定する案
- 標高は約20mを想定

《環境等への影響》

○滑走路南側で計器飛行方式を採用した場合

野羊山	原則切土が必要（水平表面） ※一部は転移表面確保のため必ず切土が必要
中山峠	原則切土が必要（水平表面）
海岸からの景観	施設が小港海岸から視認され景観に影響（コペペ海岸からは影響なし）

〈イメージ図〉



滑走路長400m + α

- AW609の活用を想定した飛行場を設定する案
（飛行機（固定翼）に分類された場合）
- 標高は約25mを想定

《環境等への影響》

○滑走路南側で計器飛行方式を採用した場合

野羊山	原則切土が必要（水平表面） ※一部は転移表面確保のため必ず切土が必要
中山峠	切土不要
海岸からの景観	小港海岸・コペペ海岸からの景観への影響なし

○有視界飛行方式を採用した場合

野羊山	原則切土が必要（水平表面）
中山峠	切土不要
海岸からの景観	小港海岸・コペペ海岸からの景観への影響なし

〈イメージ図〉



気象調査

目的	飛行場の配置、航空機の運航の検討に係る基礎資料として活用
調査概要	洲崎地区の陸上定点に観測機器を設置し、風向・風速、視程、雲高などの観測を実施
結果概要	南北方向に飛行場を配置することが望ましい

海象調査

目的	工程や施工の安全性検討の基礎資料として活用
調査概要	洲崎地区周辺の海中に波浪観測装置を設置し、波向・波高等を観測
結果概要	波高は、年間を通して作業中止基準（想定）である1.5mを概ね下回った（海象が工事に与える影響は少ない見込み）

【調査結果】

地上風（地上10m）、上層風（地上157m）の風向・風速
（観測期間：R 2.2～R 5.2）

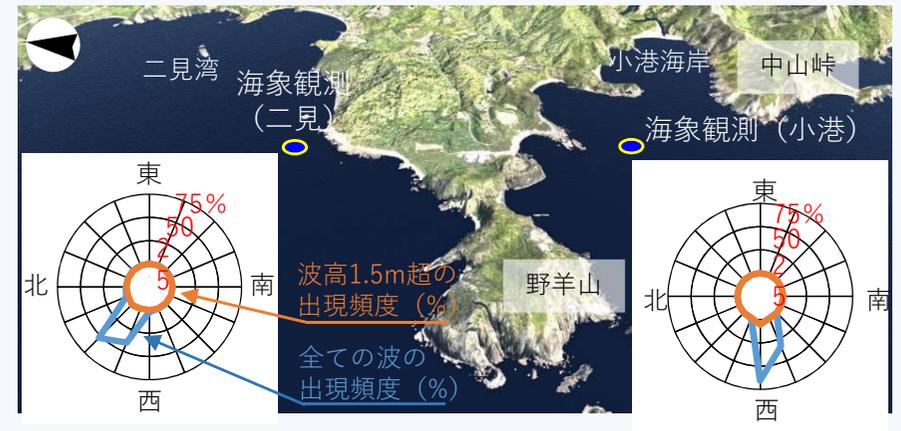


< 3 か年の傾向 >

- ・地上風は、野羊山等からなる南北の谷筋の地形の影響を受け、南北方向の風向出現頻度が卓越
- ・また、平均風速は、南北方向の風がやや強い傾向
- ・上層風は、地上風と比べ、地形の影響が少ないため、風向出現頻度の偏りが比較的少

【調査結果】

波向・波高
（観測期間：R1.10～R2.10、R 4.6～R5.11）



< 2 か年の傾向 >

< 二見 >

- ・西北西～北西の波向が卓越
- ・波高1.5m超の出現頻度は、全波向で年間2.7%

< 小港 >

- ・西南西～西の波向が卓越
- ・波高1.5m超の出現頻度は、全波向で年間6.1%

環境調査（オガサワラオオコウモリ調査）

目的

世界遺産における遺産影響評価及び環境影響評価に必要な予測評価及び環境保全措置等を検討するための基礎データの取得

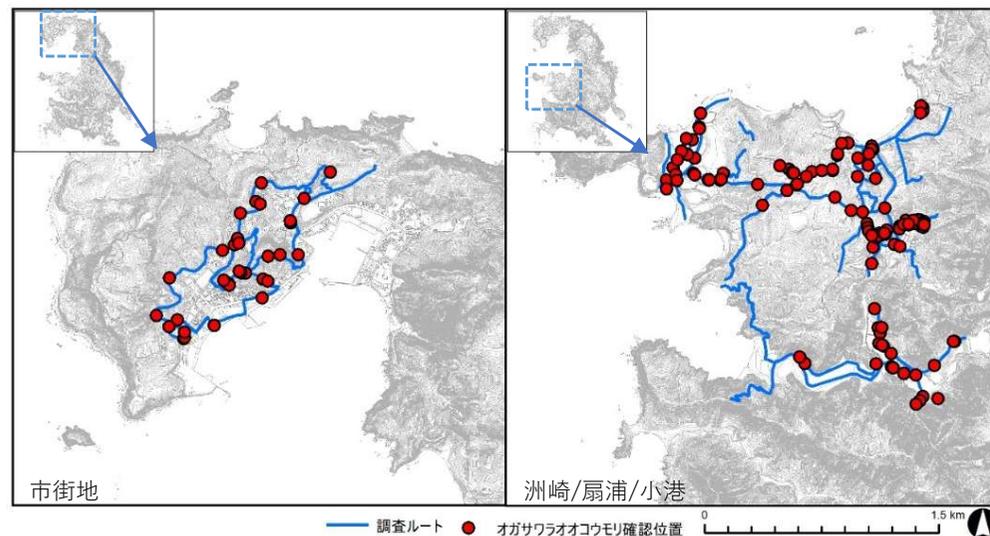
調査概要

洲崎・扇浦・小港・市街地の4地域において、7・9・11・2月の夜間3日間、確認地点及び無作為に設定した未確認地点で照度・騒音値の計測を行い、オガサワラオオコウモリの生息状況と光環境・騒音環境との関係を調査

結果概要

オガサワラオオコウモリの生息状況と光環境・騒音環境との間に、有意な相関関係が認められなかった。

→市街地レベルの照明や騒音による生息状況への影響は少ないと考えられる。



調査範囲とオガサワラオオコウモリ確認地点



市街地の店の照明が当たる場所で採餌するオガサワラオオコウモリ



熱赤外線カメラで補足したオガサワラオオコウモリ

環境影響評価に必要な項目の調査実施状況

- 貴重な自然環境に配慮した施設案とするため、**環境影響評価に必要な調査項目について**、小笠原諸島の生物・生態系の多様性を踏まえた調査を**右図のとおり実施**
- 今後、**必要に応じて情報を更新しながら**、**自然環境への影響に配慮した飛行場施設案を検討**



アオウミガメ



オガサワラオオコウモリ



サンゴ



ハシナギイルカ

【これまで実施した調査項目】

調査項目	
● 生物・生態系	
陸上動物	哺乳類・爬虫類・両生類 一般鳥類 ウミガメ類 昆虫類 オガサワラオオコウモリ アカガシラカラスバト 陸産貝類
生息生育環境	希少生物 (固有植物・陸産貝類)
水生生物	陸水動物
海生生物	造礁サンゴ 魚類 ベントス 海藻・棘皮動物 鯨類 (クジラ・イルカ)
陸域生態系	オガサワラノスリ クマネズミ グリーンアノール
侵略的外来種	
陸上植物	
● 大気汚染、騒音・低周波音・振動	
● 水質汚濁 (流向流速・水質)	
● 景観	
● 自然との触れ合い活動の場	

令和6年度調査のポイント

PI・航空機等調査

○ 航空機等調査

- ATR42-600S及びAW609に係る開発状況や型式証明の動向等の情報収集
- 運航事業者の知見等を得て小笠原への運航可能性に関する詳細な検討を継続

○ PI実施に向けた内容検討

- 構想段階パブリック・インボルブメント（PI）の具体的な実施内容を検討

空港計画調査

○ 配置・構造・工法等の検討

- 想定される航空機に対応した洲崎地区の飛行場施設について、自然環境への影響や運航事業者等の知見を踏まえ、配置を検討し、構造・工法を更に検討
- 飛行場施設の景観への影響や飛行経路の安全性等を確認するため、令和6年度における調査・検討を踏まえ、視覚資料を作成

環境調査

○ オガサワラノスリの生息状況等調査

- 都条例に定める環境影響評価手続に向けて、専門家の意見を踏まえた事項（オガサワラノスリ等）の調査を実施し、環境配慮書案を更新



オガサワラノスリ

○ ユネスコ世界遺産センター提出資料の内容検討

- 複数の事業計画案（航空路案）について環境影響評価の比較を行い、ユネスコ世界遺産センターに提出が必要な報告書案の内容を検討

◎ 村民生活の安定と小笠原諸島の自立的発展、更には村民の安心・安全を守るため、**貴重な自然環境と調和した航空路の実現**を目指し、**関係機関と緊密な連携**を図りつつ、パブリック・インボルブメントの円滑な実施に向けた**準備を着実に進めて行く**。